

風水害対策

「風水害」とは、強風、大雨、洪水などによる自然災害のことです。これらは、毎年のように全国各地に大きな災害をもたらしています。このような自然災害から身を守るためには、様々な自然現象について正しい知識を持ち、自分自身への身近な危険として認識し、災害時にとるべき行動を平時から身につけておくことが重要です。

洪水災害について

地球温暖化の進行に伴って、日本では猛烈な雨（1時間降水量80mm以上の雨）の年間発生回数が増えています。大雨や短時間に降る強い雨の頻度はさらに増加すると予測されています。

外水氾濫

河川の堤防から水が溢れたり、堤防が決壊して、家屋や田畑が浸水すること。

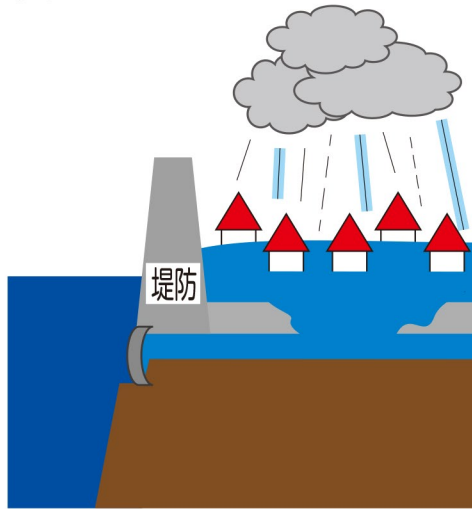
外水氾濫が発生すると、大量の水が流れ込み広い範囲で浸水し、水が引くまでに時間がかかります。



内水氾濫

市街地などで大雨が降ると、側溝や排水路だけでは雨を流しきれなくなることがあり、溢れ出した雨水により、建物や土地・道路が水に浸かってしまうこと。

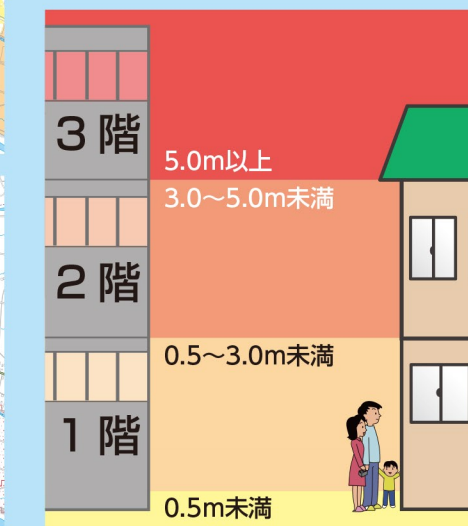
雨が降り始めてから短時間で浸水することもあるので注意が必要です。



地図で表記される風水害の凡例

水害 洪水浸水想定区域(浸水深)

- ① 浸水深より居室は高いか
 - ② 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていないか
- この2つが確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です。



避難のながれ

雨が降り始める

? どこへ?

- ・歩いて行ける近くの指定緊急避難場所
- ・親戚、友人の家など、より安全な場所

早い段階で避難開始

避難に時間を要する方は「高齢者等避難」で避難開始。



原則、歩いて避難。

「避難指示」を聞いたらみんな避難開始

浸水が浅くても流れが速いと危険です。

高架下のアンダーパスなど低いところの浸水に気をつけましょう。



数10cmの浸水でも水圧でドアは開きません。

水は濁っています。マンホールや側溝のフタが外れて危険です。



災害発生

その場、その時、最も安全な場所へ

? 逃げ遅れたら... どこへ?

- ・自宅の高いところ
- ・すぐ近くにある高い建物など

同じ建物でも上層階など、浸水から身を守る場所へ避難しましょう。

雨の強さと降り方

やや強い雨

10mm以上~20mm未満

雨の音で話し声が良く聞き取れない。



●ザーザーと降る

強い雨

20mm以上~30mm未満

ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。



●どしゃ降り

激しい雨

30mm以上~50mm未満

山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。



●バケツをひっくり返したように降る

非常に激しい雨

50mm以上~80mm未満

マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。

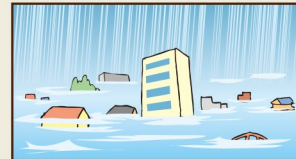


●滝のように降る

猛烈な雨

80mm以上~

雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。



- 恐怖を感じる
- 息苦しくなるような圧迫感がある

風の強さと吹き方

10m/s以上~15m/s未満

風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。



15m/s以上~20m/s未満

風に向かって歩けない。転倒する人もいる。



20m/s以上~25m/s未満

しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。



25m/s以上~

立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。



台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備える必要があります。

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s以上44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s以上54m/s未満
		猛烈な	54m/s以上

強風注意報・暴風警報

強風注意報:
平均風速が11m/sと予想される場合
暴風警報:
平均風速が20m/sと予想される場合

大雨注意報

大雨によって被害が起こるおそれがあると予測される場合
・表面雨量指数基準 9
・土壌雨量指数基準 94

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予測される場合
・表面雨量指数基準 25
・土壌雨量指数基準 146
記録の短時間大雨情報
1時間に雨量100mm

上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発表されます。